

2018年12月

## 高齢者の免許返納率向上のための改善案 ～神奈川県を例として～

経営学部 経営学科 堀田ゼミ

B5R11023 大塚祥平

### 【卒業論文概要】

近年、少子高齢化に伴い様々な問題が発生しているが、本研究では、高齢者の免許返納問題を考える。よくニュースなどで高齢者の暴走運転の特集が組まれ、放送されている。高齢者は、老化に伴い、判断能力、反射神経などの低下により重大な事故を引き起こす危険性があると言われている。よって、高齢者が自主的に免許を返納する対策などが実施されているが、現状は10%程度と低い数値に留まっている。まだまだ運転が必要である、運転はしないが免許証を身分証として必要に感じているなど、免許を返納したくない理由は様々である。そこで、神奈川県内に住む高齢者の免許返納率を向上させるための改善策を提案する。

本研究では、免許保有率・自主返納状況などの現況データ、および、自主返納を促すこれまでに行われている施策、自主返納に至らない理由などを調査し、どうしたら、高齢者が進んで免許を返納するようになるのかを様々な視点から検討した。